◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

愛媛県立図書館　読書会協力図書
新規受入セットのご紹介（一般向け）　平成 27 年版目録掲載

1　人生を考える（宗教・哲学）

185　生と死をめぐる断想

岸本葉子著　中央公論新社　2014（平成 26）年　203p

これは日本人の死生観というまとまったものではなく、生と死について考えながらめくった本の中から心に触れた記述をまとめた読書ノートに近い。40 代でがんを宣告され、東日本大震災で深い喪失感を持った著者が、関連書籍を読み込んで、生とは死とは、考えをめぐらせた貴重な断想。

2　歴史の旅・地理の旅

290　わたしはマララ

ﾏﾗﾗ･ﾕｽﾌｻﾞｲ著　学研ﾊﾟﾌﾞﾘｯｼﾝｸﾞ　2013（平成 25）年　429p

2014 年に史上最年少 17 歳でノーベル平和賞を受賞したマララ。女性が教育を受ける権利を訴え続けてきた彼女は、15 歳の時にイスラム武装勢力タリバンの銃撃を受け重傷を負う。奇跡的な回復を遂げた彼女は、今なお教育のために闘い続ける。

3　社会の問題

3169　放射線を浴びたX年後

伊東英朗著　講談社　2014（平成 26）年　229p

1954 年 3 月 1 日、ビキニ環礁で行われたアメリカの水爆実験。第五福竜丸以外のマグロ漁船とその乗組員たちの被爆の実態は、長い間忘れ去られていた。南海放送のディレクターである著者が、過去の出来事として終わらせないために、高知の高校生とその教師の調査の足跡をたどり、真実を追い求めた 10 年の記録。

5　暮らしの科学

557　紙つなげ！彼らが本の紙を造っている

佐々涼子著　早川書房　2014（平成 26）年　267p

日本の出版用紙の約４割を担う日本製紙石巻工場。2011 年東日本大震災により全機能が停止し、工場を再生させるか閉鎖するかという岐路に立たされた。可能性は低くても半年で復興することを目標に、社員全員が一丸となって再生への道を歩み始める。

7　心のうるおい（趣味と芸術）

749　アンパンマンの遺書

やなせたかし著　岩波書店　2013（平成 25）年　292p

誰もが知っている「アンパンマン」の生みの親、やなせたかし氏。2013 年 94 歳で亡くなるまで精力的に活動し続け、アンパンマンの登場キャラクター数はギネス世界記録に認定されるまでになった。著者が自らの人生について、50 歳で発表したアンパンマンの創成を軸としてまとめたものであり、人生哲学が詰まった本である。

9　詩歌・随筆・記録・外国文学

9385　かもめのジョナサン　完成版

リチャード・バック著　新潮社　2014（平成 26）年　170p

1970 年に発表された『かもめのジョナサン』。幻と言われた最終章を加えた完成版である。仲間たちから追放されても学ぶことを恐れず、飛ぶことの本当の意義を知ろうとし続けた一羽のかもめ・ジョナサン。五木寛之の創訳が、読者それぞれに自由な想像力を与える。

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

愛媛県立図書館 読書会協力図書
新規受入セットのご紹介（一般向け） 平成 27 年版目録掲載

F 小 説

F561 破門

黒川博行著 KADOKAWA 2014（平成 26）年 469p

愛媛県出身、黒川博行氏の直木賞受賞作。映画製作の出資金を持ち逃げされたヤクザの桑原と建設コンサルタントの二宮。失踪した詐欺師を追いかけるうちに組同士の抗争に発展する。ヤクザと堅気の不思議なコンビが大暴れ。軽妙な大阪弁とスピーディーな展開で一気に読める。

****

F562 ミドリのミ

吉川トリコ著 講談社 2014（平成 26）年 255p

小学 3 年生のミドリは、親の別居により住み慣れた町を離れ、父と父の新しい恋人の源三（男）と一緒に暮らし始める。転校先の学校にうまく馴染めないミドリ、お互いのことで心を悩ませる父と母。家族・親子の在り方、「普通」とは…いろいろな観点から考えさせられる一冊。

****

F563 村上海賊の娘 上巻・下巻

和田竜著 新潮社 2013（平成 25）年 474p，499p

1576 年、瀬戸内海上の島々を中心に活躍した村上海賊の娘・景の物語。第一次木津川口海戦の史実に基づいた時代が舞台となっており、家の存続をかけて活躍する男たちと一緒になって暴れる破天荒な景の様子が壮大なスケールで描かれる。2014 年本屋大賞受賞作。

****

F564 物語のおわり

湊かなえ著 朝日新聞出版 2014（平成 26）年 293p

人生の岐路に立たされた 6 人が、それぞれに北海道を旅する。そんな 6 人の手にリレーのように渡されて行く一つの紙の束。それは、「空の彼方」という結末の書かれていない物語だった。旅の中でその物語に触れることによって、6 人それぞれが様々な結末を思い浮かべ、自分の人生の一歩を踏み出していく…。

****

F565 昨夜のカレー、明日のパン

木皿泉著 河出書房新社 2013（平成 25）年 237p

7 年前に 25 歳の息子を亡くしたギフと、その息子の嫁だったテツコ。適度な距離感を保ちながら暮らす二人の、何気ない日常にある幸せやユーモアを描いた連作。忘れることのない悲しみを抱えながら、ささやかな喜びや発見を楽しんで生きる登場人物たちに癒される。

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆